

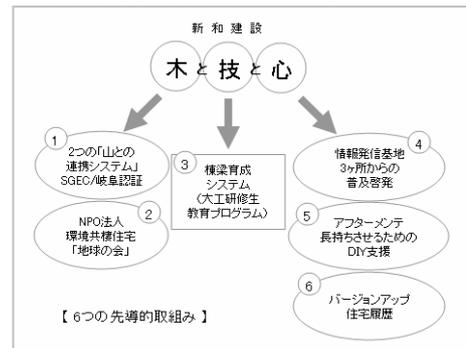
提案名	「田舎（ふるさと）と呼べる家に住みたい」新和建設の先導事業	分野	木造等循環型社会形成の分野に係る提案
提案者	株式会社新和建設	種別	システム提案
構造	木造住宅（在来軸組）	建て方	一戸建ての住宅

■提案の基本的考え方

平成 21 年度第 2 回で提案しました『「孫子の代まで住み継ぐ家」新和建設の先導的モデル事業』でも記載をしましたが、新和建設は「家づくり」について創業以来ずっと 3 つのこだわり「木と技と心」があります。木にこだわり技にこだわる職人が、心を込めてつくる家。それは百年経ってもまだ使える「孫子の代まで住み継ぐ家」を提案し提供してきました。

今回の長期優良住宅先導事業は、「長持ちする家」から「長持ちさせたい家」へ基本的な考え方を移行しました。これはいくら長持ちする家といつて丈夫でいい家をつくっても結局住まい手の意識ひとつで「長期優良住宅」ではなくなってしまうと考えたからです。「長持ちさせたい家」それはどんな家か。身を置いて一番落ち着く安らげる場所「還るべき場所」。日本人の原風景とも言うべき「田舎」つまり「ふるさと」だと考えます。住まい手が探し求める「還るべき場所」を考え、「田舎（ふるさと）と呼べる家」を提案し、「長持ちさせたい家」を目指しました。

そして新和建設のこだわり「木と技と心」を根底に、6 つの先導的取組みと「田舎（ふるさと）と呼べる家」に必要な 5 つの条件を提案します。



■提案内容

◆6 つの先導的取組み（先導事業のバックボーン）

1, 2 つの「山との連携システム」 SGEC と岐阜県証明材

新和建設は 2 つの「山との連携システム」を構築し利用。もちろん 100%国産材です。SGEC では岐阜県中津川市加子母森林組合産出の「東濃桧」を柱材として使用予定です。岐阜県証明材については、「ぎふ証明材性能表示体制整備検討会」に参加し製品品質・性能表示基準を検討してきました。岐阜県証明材では梁・桁に「岐阜県産杉」を使用予定です。



2, NPO 法人 環境共棲住宅「地球の会」

「地球の会」においても「山との連携」を強化するため、「工務店と山との連携」プロジェクトチームが発足し活動がスタートしました。全国各地に点在するビルダー会員とともに森林・林業を日本全土という幅広い視野でも考えることができ、そして活性化するよう啓蒙活動を行っています。

業界・法人への啓蒙活動に対し、住まい手へは「森林見学ツアー」です。生産者（森林・林業）と住まい手を結びつける取組みとして地域産業の活性化にもつながります。全国一斉開催の推進から啓蒙活動は大変有効になります。

3, 棟梁育成システム（大工研修生教育プログラム）

新和建設には「技」を継承するための大工育成制度があり、新和建設の家をつくる棟梁は生粋の新和育ち。現在 105 名が在籍、親子 2 代で働く棟梁も 12 組います。

棟梁としての技術力、お客様対応力など基準以上身につくための研修内容やその評価はどうしているかなどをさらに掘り下げ、40 年以上続く実績の根源を提案。6 年間の技術的作業プログラム、人間的教育プログラム、そしてその評価表を公開。より精度の高い大工技術と総合的な人間力を目指す過程がそこにはあるのです。

4, 情報発信基地 3ヶ所からの普及啓発の仕組み

愛知県尾張名古屋エリア・岐阜県美濃エリア・岐阜県飛騨エリアの 3ヶ所に営業拠点があり、そして各々に国産材利用のモデル住宅および情報発信基地を計画オープンしました。長期優良住宅の説明ができ普及促進につながる、また住まい手の意識改革が図れる基地を目指しています。



左：尾張名古屋情報発信基地
中：美濃モデル住宅
右：飛騨モデル住宅

5、アフターメンテナンス 長持ちさせるためのDIY支援

「長持ちさせたい家」では住まい手の意識改革が必要です。住まい手自らがそう思うこと、そして長持ちさせるために自ら行動を起こすことと考えます。「田舎（ふるさと）と呼べる家」ではお手入れの啓発としてDIY支援を行っていきます。①新和建設制作「お手入れDVD」②住まいのお手入れ講座③ホームページでの紹介。

以上の3段階で住まい手と一緒にメンテナンス、DIY支援を推進し「田舎（ふるさと）と呼べる家」を実現させていきます。



6、住宅履歴管理のバージョンアップ

長期優良住宅を実際にすすめていく上で、住宅履歴管理のバージョンアップを図ってきました。明確に漏れない情報を1ヶ所に集中保管し住まい手とも定期的に情報共有を行います。

◆「田舎（ふるさと）と呼べる家」に必要な5つの条件

1、頑丈な家

国産の質の良い桧を土台や柱など主要部分に使い、木の特性を知り尽くした新和建設の棟梁の技が冴える家。提案住宅には2タイプの小屋組構造があります。2階小屋組を全面に表した登り梁（大垂木）方式と昔ながらの和小屋方式です。それぞれ構造計算において構造の安定を確認。（写真は上段が登り梁方式、下段が和小屋方式）



2、飽きのこない家

日本の気候風土に適応しているという“和の家”の良さを出します。屋根にこだわり、軒をたっぷり出すなどの外観デザインを取り入れることで風情を感じ飽きのこない家を実現します。ひとつは愛知県名古屋市内やその周辺など土地が比較的コンパクトな都心エリア用に準備。ボリューム感を抑えたシャープさを出した外観が特長です。もうひとつは、土地に余裕のある住まい手や農山村部用として木の表しにもこだわり、どっしりとした屋根が特長です。

3、子どもが健康になる家

□ 木と人の良い関係・・・木があるから健康に良いとは一概に言えません。しかし木造の環境は人の心を和ませ、リラックス効果を高めるといった評価もあります。家全体で心身ともに健康になれるそんな住まいを目指します。

□ 健康は「食」からも・・・木の家、自然素材の家で健康に暮らすだけでなく、「食」からの健康も大事。お庭に畑をつくって家庭菜園。桧製の手づくりプランターで家庭菜園。市民農園を借りて家庭菜園。日本の気候風土に育まれた木の家に暮らすことは、自然を肌で感じ自然と共生する、それを「食」という身近なところで「家庭菜園」を通じ推進しています。



4、エコライフの家

住まい手への省エネ意識の見える化として ①生活中心空間に省エネ温度計の設置 ②窓の断熱性能表示 ③待機電力のカット ④エコナビエアコンの提案 を行っていきます。

5、家づくりは田舎（ふるさと）づくり

今から建てる新しい住宅は大人にとっては田舎（ふるさと）でなくても子どもにとっては育った家が田舎（ふるさと）。だから「家づくりは田舎（ふるさと）づくり」。できあがった家で作られる家族の思い出は子どもにとって大切な栄養であり家族みんなの財産です。①存在感ある大黒柱 ②四季を感じる濡れ縁 ③心が和む畳の部屋 ④兄弟友達と遊べるロフト ⑤家と子どもと一緒に成長する庭木 ⑥手形の思い出づくり。このような仕掛けで家族の想いを大事に「長持ちさせたい家」をつくりたい。



以下は長期優良住宅先導事業提案住宅です。



■提案者からのコメント

新和建設がイメージする田舎（ふるさと）を提案することができました。それは私たちが生まれ育った田舎（ふるさと）そのものだからです。

長期優良住宅の考え方が、田舎（ふるさと）に長持ちさせたい家を作る。例えば、「田舎（ふるさと）の木を使い、田舎（ふるさと）の棟梁の技で家を作る」など、日本人の心そのものの気がします。

もちろん都会であっても田舎（ふるさと）の考え方は同じです。どこの場所でも田舎（ふるさと）と呼べる家を提供することができ、長持ちさせたいと思っていただき、長期優良住宅の普及につながることを期待しています。